

校正前原稿のため、正式な分科会記録ではありません。

令和8年5月定例会
(2026年)

予 算 常 任 委 員 会 財 政 総 務 分 科 会 記 録

会議日 6月16日(火)

校正前原稿のため、正式な分科会記録ではありません。

○日 時

令和 8 年（2026年） 6 月16日（火）

開会 午前10時10分

閉会 午前11時59分

○場 所

第 1 委員会室

○出席委員

委 員 長 竹 村 博 之
委 員 梶 川 文 代
委 員 山 根 建 人
委 員 浜 川 剛

副 委 員 長 乾 詮
委 員 久 保 直 子
委 員 江 口 礼 四 郎
委 員 泉 井 智 弘

○欠席委員

な し

○説明のため出席した者（部長級以上の職員及び発言した職員を記載）

〔総務部〕

危機管理監 山 下 栄 治
消防本部企画総務室長
危機管理室兼任 （柴 野 将 行）
危機管理室主幹 菊 地 祥 吾

防災政策推進監 有 吉 恭 子
危機管理室参事 白 澤 耕 一 郎
危機管理室主幹 塩 津 達 哉

〔行政経営部〕

部 長 北 澤 直 子

企画財政室主幹 板 谷 康 次

〔消防本部〕

消防本部企画総務室長
危機管理室兼任 柴 野 将 行

○議会事務局出席職員

主 幹 水 落 康 介
書 記 中 川 晃 希

主 査 奥 野 太 一

○付議事件

議案第63号 令和 8 年度吹田市一般会計補正予算（第 1 号）中分担分

校正前原稿のため、正式な分科会記録ではありません。

(署名又は押印) 委員長

校正前原稿のため、正式な分科会記録ではありません。

(午前10時10分 開会)

○竹村博之委員長 ただいまから、予算常任委員会財政総務分科会を開会し、本日の会議を開きます。

○

○竹村博之委員長 初めに、本分科会に分担されました議案の審査は、クラウド上などに掲載してあります審査順位(案)のとおり進めたいと思いますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

御異議ありませんので、そのように進めることにします。

なお、質疑時間を十分確保し、審査の充実をより一層図るため、理事者からの資料説明は省略することにします。

また、要求資料の目次の欄に、要求委員名を記載してもらっておりますので、御了承願います。

これより議事に入ります。

○

○竹村博之委員長 議案第63号 令和8年度吹田市一般会計補正予算(第1号)中、総務部所管分を議題とし、質疑を行います。

質問があれば、受けることにいたします。

○江口礼四郎委員 まず、資料をたくさん準備していただきまして、ありがとうございました。短時間の中でこのように調整してもらいまして、感謝です。

今回、この避難所宿泊体験訓練は、非常に興味が高いというか、極めて社会的意義のある訓練ではないかなと個人的には思っております。そういった観点から質問をしていきたいなと思います。

まず、概要の資料を頂きまして確認させていただきました。そちらのほうから質問していきます。

吹二地区で実施するとありますが、まずこうなった経緯を教えてください。

○塩津達哉危機管理室主幹 訓練につきましては、今回が初めての宿泊訓練というところになりますので、想定外の事象への対処策を確保する必要があるというところがあります。

そのため、やっぱり本庁舎に比較的近い場所で実施することが望ましいというところを考えました。

また、備蓄倉庫を活用した物流対応も予定してお

りますので、備蓄倉庫に近い地区が望ましいという判断をいたしました。

これらを総合的に検討した結果、吹二地区は以前から実施に向けた検討が進んできたというところも踏まえまして、最終的に吹二地区を選定したというところでございます。

○江口礼四郎委員 選定理由と、そして地域の方々の協力もあつての形なのかなと思います。

資料では、参加人数がたしか200名だったかなと思いますが、その見込みといえますか、集まっているだけの状況でしょうか。

○塩津達哉危機管理室主幹 地域と連携して200名を見込んでおります。

○江口礼四郎委員 関係機関の関係で国立健康・栄養研究所や千里救命救急センター等との連携があります。これだけでも、吹田市ならではのようにも思いますが、他市にない吹田市ならではの訓練を担当課は今回どのように考えておりますか。

○塩津達哉危機管理室主幹 訓練の結果を踏まえまして、スフィア基準に照らし合わせて適切な避難所レイアウトの在り方とか、衛生環境を確保するためのトイレ環境の整備などについて検討を進めるとともに、本市の避難所運営マニュアル作成指針の見直しにも反映していきたいというふうに考えております。

○江口礼四郎委員 今回、スフィア基準に沿った訓練ということで、訓練項目の内容をスフィア基準に当ててもらおうようお願いをしましたが、スフィア基準とは、簡単に御説明をお願いしてもいいですか。

○塩津達哉危機管理室主幹 スフィア基準につきましては、災害時においても人としての尊厳を守りまして、被災者が健康で安全な生活ができる環境を確保するための国際的な最低基準となっております。

スフィア基準の環境の確保といたしましては、例えば、衛生的なトイレ環境とかプライバシーの配慮、あと食事への栄養価への配慮についてになります。

○江口礼四郎委員 これまでの風潮といいますか、避難所生活は不便でも仕方がないとか、ぜいたくするのは、何か言ってはならないみたいな環境から転換をしているのかなと思います。

今、言われてたのは人権に近いんですかね、尊厳

のある生活っていう部分で、そういうのがこれからの防災というか、避難所の開設に非常に重要になってくるのかなと思います。この意識の改革というか、アップデートっていうのが求められているので、そういった訓練になってほしいなと思います。

それと、健康二次被害の予防というのも今回の訓練の中には含まれていると思うんですけど、吹田市で健康被害、いわゆる災害関連死っていうのを防いで、市民の尊厳とか、命を守り抜くとか、そういったことをやりたいのかなというふうに思ってるんですけど、意思の表れとしてそういうことで間違いないですか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今回のこの事業を実施するに当たり、こちらは内閣府のモデル事業としても実施する形で、避難所環境の改善のための取組を本市としてもさらに進めるために実施していくものがございます。

本市としても、これまで地域防災リーダーの育成をしながら避難生活リーダー・サポーターの育成なども過去には実施するなど、避難所の環境整備の改善はこれまで進めてきましたけれども、今回の取組によって、またさらにそれらが進むものというふうに考えておりますので、今回の結果を踏まえて、地域全体の避難所環境の改善に努めてまいりたいと考えております。

○江口礼四郎委員 楽しみというか、いいものになればなと思います。

健康状態検査の検査項目の資料からも質問をします。

まず、この検査、これが訓練の参加必須項目か何かになってますか。

○塩津達哉危機管理室主幹 必須項目にはなってはおりません。ただ、訓練に参加する方につきましては、事前に検査に関する説明をさせていただきまして、同意いただいた方について御協力をお願いするというふうになっております。

なお、検査を実施するに当たりましては、健栄研が倫理審査を行いまして、倫理上問題がないと判断されたものにつきまして、実施を行うというものとなっております。

○江口礼四郎委員 今のでいうと、訓練ともう一つ、出ていただける方のデータの活用がある中で、どうしてもそっちを求めに行ってしまうことに前のめりにならずに、なってしまう心配もあるんですけど、そういったのがデータに反映、極力少ないように、精神的とか肉体的とか、訓練の参加者に負担とかストレスがあまりかからない、最小限になるように配慮してもらいながらプロセスを進めていただきたいなと思います。ここ、非常に大事なのかなと思います。

この唾液・採尿検査ですかね、だったりFitbitっていうのは、ここまで踏み込んだ訓練、なかなか見ないと思うんですけど、他市でもこういった事例あるんですか。

○塩津達哉危機管理室主幹 他市では、あまりこういった事例はないと考えております。

○江口礼四郎委員 本当に吹田市ならではのと思います。がゆえに、慎重に丁寧に進めていただきたいなと思いますが、市の御見解を教えてください。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今回の訓練は、やはり初めてというところもあり、様々なリスク等も考えながら医師、看護師の配置をはじめとして、本市としても最大限こういったリスク管理に努めながら実施していきたいというふうに考えてございます。

初めての取組でありながら、やはりこういったものをしないと先進的な取組として今の現状の避難所環境の改善にはつながらないというふうに考えておりますので、今回の取組を踏まえて、さらなる体制の改善に努めていけるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

○江口礼四郎委員 お願いいたします。

業務委託の内訳について資料を頂きまして、こちらのほうからも質問させていただきます。

訓練モデル動画制作費が約30万円入っておりますが、ここの詳細をよければ教えてください。

○塩津達哉危機管理室主幹 こちらの訓練モデルの動画制作費なんですけれども、訓練で得られた成果や課題を地域で展開するために、訓練の様子を動画で記録して編集するというものになっております。

映像化することによって、避難所の運営の手順と

校正前原稿のため、正式な分科会記録ではありません。

か留意点が分かりやすく共有できるっていうところがあります。

また、地域で実施する宿泊体験訓練を教材として活用して、実効性の高い訓練モデルの普及につなげていきたいというふうに考えております。

○江口礼四郎委員 過程から視覚的にも刺激のあったものになる、大事なもののなので、次につながるよう願っております。

報告書の作成を委託で行う理由はありますか。

○塩津達哉危機管理室主幹 過去には、不発弾の処理対応に関する報告書を危機管理室で作成したという実績はあります。

しかしながら、やっぱり一定レベルの報告書作成をするには、相当な時間を要します。報告書作成については、もちろん危機管理室が関与するということは前提ではありますが、本訓練につきましては、訓練参加者の健康状態の観察とか、各種データの収集なども予定をしております。

そういったところから、市が得た知見とか現場の状況を的確に把握しつつ、データの整理とか、分析とかっていうところについて効率的に実施するために、高いスキルと、あと相当な業務量が見込まれるというところから、当該業務を委託するものとなっております。

○江口礼四郎委員 通常の業務の中でこういったことも入ってくるのかなと考えられますが、ふだんやられてない研究結果みたいな部分も、報告書を職員の皆さんがされるよりも、その分野にたけた方がされるのかなと思うんですけど、市の皆さんも関与されるということなので、積極的に情報共有というか、報告書の内容は楽しみにしてますので、よろしくお願いいたします。

この下段のトイレカー一式、キッチンカー一式は借りるということなんですけど、自前で持たれてない理由というのは過去にも本会議で質問もあったと思うんですけど、市の考えを教えてください。

○塩津達哉危機管理室主幹 トイレカー、キッチンカーにつきましては、自前で持つ場合につきましては、相当な場所を確保する必要があります。それに伴って、本来備蓄すべきところ、備蓄ができなくなると

いうことが一つ考えられます。

また、トイレカーにつきましては、被災地の事例にはなりますけれども、例えば使い慣れないものがありますので1週間ぐらいで壊れてしまったりとかっていうところもありますし、発災で使った場合につきましては、し尿とかを取らないといけないというところがございます。

また、そういったところもありつつ、今、内閣府のほうでD-TRACEという災害対応の車両っていうのが展開されていってまして、平時からキッチンカーとかやってる事業者さんが、発災時においては被災者を助けるというような取組を展開していています。

そういったものを、発災時については活用していきたいと考えております。

○江口礼四郎委員 諸事情、分かりました。

もしかしたら、この今回の訓練で、また新たな地域の声があるかもしれませんので、またそういったのも勘案しながら検討いただければと思います。

次の資料、ロードマップも頂きまして、私みたいな人間にとっては、図解にしてくれるとすごく分かりやすいなと思います。

これに期待するのは、今後の展開というか、訓練の終わった後、より反映してもらいたいというところなんですけど、来年度以降の訓練等はどうか考えておられますか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今回の訓練につきましては、避難所宿泊体験訓練を今後、各地域で展開していくためのモデルケースをつくることを目的に企画、運営、役割分担と、課題を把握して検証に必要な予算を計上してございます。

来年度以降につきましては、今回の訓練で得られた成果を基に、各地域が予算的に無理なく実施できるように訓練の手順や留意点を整理しまして、地域の実情に応じて活用できる訓練フレームの作成を行ってまいります。

実施に当たっては、既存の自主防災組織活動補助金も御活用いただきながら訓練が行えるように、市として必要な支援や相談は引き続き行ってまいりたいというふうに考えております。

○江口礼四郎委員 分かりました。

今回の訓練に参加されたりとか、その結果から波及した内容が、地域からまた訓練したいという声が出るかもしれませんので、そのときにはしっかりとサポートしてほしいですし、よければ市のほうからも働きかけて、他の地域で展開できるような形を求めていると思います。お願いいたします。

これまでの答弁の中でも、本当に実効性の高いマニュアル作成というのを求めているように思いますが、改めて意思というのがありましたら教えてください。

○白澤耕一郎危機管理室参事 先ほど来、担当のほうから御答弁させていただきましたように、今回、新たな取組を予定しているところでございます。

それらから得られた知見というものを改めて今回マニュアルに反映する予定でございますが、そういったものをしっかりと今後の各地域にも展開できるような仕組みをしっかりとつくることで、市全体の災害時における円滑な避難所運営体制の強化というものにつなげていきたいと考えているところでございます。

○江口礼四郎委員 ありがとうございます。期待しています。

新たな取組ということで、ここにもどうしてもお金がかかってくるわけなんですけど、今回は防災力強化総合交付金を活用されていると聞いてます。

これは、令和8年度からたしか新設された内閣の交付金で、35億円ぐらいでしたかね、今後また防災庁に転換されるのかなというふうに思うんですけど、そういった情報だったりとかは、もうアンテナが高くなければならないし、今後の情報収集とかにもすごい必要、関わってくることになるのかなと思います。

吹田市、単一自治体ですけど、ここでの展開とか防災の在り方っていうのは、非常に地域の皆さんも意識が高いと感じてます。

先日、地域の防災訓練に参加させてもらったんですけど、室長も来られてたんですけど、南山田、山二、そして東山田地区の3地区合同防災会議がありまして、そこで栄養に関する取組を講話いただきま

した。その内容でもたくさんの方が来てくれたと思ってます。市の皆さんが機運が高いというのは、もしものための備えといいますか、非常に重要なことだと思いますし、僕も改めて自分もしっかりせななと思ったところです。

そういうふうに、今後の展開を楽しみにしながら続けていただきたいと思います。

最後に意見というか、訓練内容が充実しているのはもちろんなんですけど、得られるデータも重宝されると思ってます。協力していただきます関係者、あと市民の皆さんがあつての内容だと思いますし、本当に感謝の一言なんじゃないかなと思ってます。

ぜひ、生かしてもらうことをお願いしまして質問を終わらせてもらいます。一旦置いときます。

○久保直子委員 まず、議案参考資料の101ページに載っていますけれども、医師が一人、看護師が二人参加されるということなんですけど、この方々の選定方法・基準を教えてください。

○塩津達哉危機管理室主幹 こちらの方々は、訓練の関係機関である千里救命救急の方々になっておりまして、DMA Tに登録されている医師の方と災害支援のナースという方を選定させていただいて、リアルに近い避難所の環境を再現しようというふうには考えております。

○久保直子委員 江口委員の資料を見せていただきたいと思います。

こちらでキッチンカーも来られるっていうことなんですけれども、やはり避難のときの食事っていうのは、すごく注目されるところかなと。今まででしたら、おにぎりとかパンとかカップラーメンとか炊き出しっていうところだったと思うんですけど、これからの改善というか、どういったことを取り組まれようとしているのかお聞かせください。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今回の訓練でも実施させていただくキッチンカーなど、こういったものがあることによりまして、やはり冷たい食事から温かい食事が食べられるようになるということと、やはり栄養面、様々な食材を用いた形で調理されたもので、栄養面の改善というのも期待できますので、こういった避難所での食事環境が少し、これまでよりもや

はり改善されることを期待して実施してまいりたい
というところでございます。

○久保直子委員 これは、このキッチンカーのところで実際に調理したものをすぐ食べるっていうことなんでしょうか。

続いてもう一つ、台湾かどこかの国やったと思うんですけど、避難所に何かすごい栄養満点のお弁当が次の日か即日か、運ばれてるっていうニュースを見たことあるんですけども、そういったことも考えたりされたんでしょうか。併せて、食事のことでもお願いします。

○塩津達哉危機管理室主幹 まず、キッチンカーの食事についてなんですけれども、その場で調理していただいたものを提供する予定で考えております。

また、台湾のほうのお話、いただきましたけれども、今回の訓練におきましては、発災直後、備蓄食の提供をさせていただいて、その翌日から炊き出し訓練という形で、温かい食事の提供というふうなことを考えております。

○久保直子委員 炊き出し訓練ということなんですけど、江口委員の資料の9ページにかまどセットを用いた炊き出しっていう、こちらのことでしょうか。

もう少し詳細をお聞かせください。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今回の食事におきましては、キッチンカー等を加えた炊き出しというものも実施する形で予定しております。

かまどセットにつきましては、昨年度、大阪府が購入した炊き出し用のセットなどもございまして、そういったものを用いて、避難所となる今回の訓練会場におきまして、実際に調理も含めた形での訓練を実施するという形で食事の提供等ができればというふうに考えてございます。

○浜川 剛委員 資料を作成いただきまして、ありがとうございます。細かな話にもなってくるかもしれませんが、何点かお聞きさせていただきます。

地域防災総合訓練での避難所宿泊体験訓練ということで、大体1月に阪神・淡路のその日を中心ぐらいで地域でもやってる訓練は、9時半に地震が発生をしたということを想定をして、まずは家の施錠とかも含めて、近くの公園に集まってみたいな、そっ

からスタートしていくと思うんですけども、つくっていただいた実施スケジュールを見ますと、10時から避難所開設というところで。

実質、じゃあ何時に、地震と思って聞いてますが、もし地震じゃなかったらそこで訂正をしていただきたいんですけど、何時に災害が発生したっていうスタートのタイミングっていうのは決められてるんですか。

○塩津達哉危機管理室主幹 災害の想定といたしましては、11月14日の午前8時45分に地震が発生したという想定で考えております。

地震の規模につきましては、上町断層帯を震源とする地震で、吹田市で想定される最大規模の地震が発災して、吹田市全域で震度6強、一部地域については震度7というところで考えております。

また、スケジュールにつきましては、今後、関係機関と調整しながら進めていきたいというふうに思っております。

○浜川 剛委員 分かりました。ありがとうございます。

8時45分に発災したということで、皆さんが集まってくる。10時から災害フェーズの初動というところからスタートしていこうってことで分かりました。

あと、健康状態の確認をしていく中で、健康状態や栄養状態の変化を観察、記録して避難生活が体に与える影響を客観的に把握っていうのが目的だそうなんですけども、スケジュールで見ますと、11月14日の10時に初動、要は避難所の開設があって、受付があって。最終的には、翌日の11月15日の10時に訓練終了、24時間ということなんですけども、24時間の生活でそういった体のストレスとか避難所の栄養状態の変化とかっていうのが確実につかめるんですかね。

○塩津達哉危機管理室主幹 御質問いただいた点なんですけども、健栄研さんのほうにも確認はさせていただきまして、1泊2日という短期間においても、環境の変化によるストレス反応による健康状態に変化が生じるっていうことは、国際的な論文でも報告されているというところでございます。

○浜川 剛委員 一般的に、違うところで寝たらある程度のストレスは感じるでしょうし、段ボールベッ

ドですし、小学校の体育館とかで、人によってはもしかしたら教室とかかもしれないですけど、寝たりとかする中で、そういうストレスはあると思うんですけど。じゃあ、その地震があったときには、避難所で寝泊まりする方っていうのは、やっぱり家で寝れない、寝泊まりができない、家がやっぱり安全ではないということで避難所生活される方、ということは、心の精神的なストレスっていうのがすごい大きいと思うんですね。

その24時間の中で、今、健栄研のそういった発表とかもあるんでしょうけども、一般的な違うところで寝泊りする以上のストレス、それこそ家がどうなってるか分からない、そういうようなストレスっていうのはすごい大きなストレスがかかってくると思うんですけども、今回の訓練では、そこまでは多分ストレスを感じることはできないと思うんですけど、それは、出てきたデータから、何か係数を掛けるっていう言い方が正しいのか分からないですけど、もうちょっとストレスがかかっているっていうような見方をするような方法とかがあるんですかね。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 今、委員から御質問いただいた内容については、我々も健栄研さんと十分に調整をしていかないといけないというところで、今回、このストレスに係る判定的なものについては、物理的な要因、トイレに行けないであったり、寝れない、おっしゃられるようなことだと思います。

本当の被災地に行くとそれ以外の要因って、たくさん外的な要因もあるかと思いますが、今回、今、答弁させていただいたものについては、物理的なものに関するところのストレスの影響が出るだろうということを健栄研さんからお示しをいただいたということになります。

今回、御質問いただいている内容についても、今後、また関係者会議が出てきますので、そういった中でも私どもでも分かり得ないところがありますので、そこは専門機関である健栄研さんとも十分に協議、調整をしながら、そういった外的要因がない中でのストレスの測定ができるのかどうかも含めて、少し情報共有していけたらというふうに思っております。

○浜川 剛委員 分かりました。

あと、本当に素朴な疑問で申し訳ないんですが、この頂いた資料の実施スケジュールの応急フェーズの中で、今もありました、キッチンカーが来ると。

一般的でいいです。能登に行かれた経験でもいいんですけど、災害当日にキッチンカーは来れますか。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 現時点での大規模な災害が起こった場合に、被災規模にもよるかとは思いますが、駆けつけられるところについては、先ほどの答弁でもありましたD-TRACEという制度が制度化されていますので、登録している事業者の方々もたくさんいらっしゃいますので、その人たちの準備次第ではありますが、被災規模と場所によっては、初日からでも到着されることはあるかというふうに思います。

○浜川 剛委員 分かりました。

あと、難癖つけてるみたいで申し訳ないんですけど、可能な限り本当に被災した状況をつくってもらえたら、より良いデータが取れるんじゃないのかなと思って言うんですけど、22時に就寝、6時に起床、一般的な地震のときって、この8時間の間でも余震とかがありますよね。寝るに寝られへん状態、小っちゃい余震があったり、また大きな余震があったり。

この8時間、たまに、地震だ、みたいなことで起こすとかいうようなことはやらないですか、それとも、どうぞゆっくり寝てください。難癖つけてるみたいで申し訳ないです。実際リアルなデータを取れるのかな、このほうが、と思って聞くだけです。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 実は、今回の訓練で断水を想定するというのも市としても初めての試みになっています。ほか自治体でもこういう取組はないかと思っています。

さらに、夜中にも負荷をかけていくというのは、我々としては望むところなんですけれども、その辺りについても、こういう御意見もあるということは関係者もたくさん関わるものになりますので、少し情報を共有しながらどうしていくかっていうのは決定してまいりたいというふうに考えております。

○浜川 剛委員 分かりました。

何回も言うんですけど、別に難癖つけてるわけじ

やないので。よりいいものができれば、せっかくなのでそれをまた広げてもらいたいと思いますので、お聞きしました。一旦置いときます。

○泉井智弘委員 何点か、今、浜川委員が言ったことって実は結構大事やと僕、思ってます。

やっぱり1泊2日で、メインは健康状態の変化とか、それを確認するのが一番の目的なのか、災害を想定した避難所訓練、宿泊訓練がメインなのか、どっちに重きを置いてるんですかね。

○有吉恭子防災政策推進監 今、御質問いただいたメインはっていうところなんですけど、メインはっていうと、避難所環境の改善のためのマニュアル改善と地域が訓練できるようにするモデルを作成する、そのための根拠となるデータを収集させていただくというものになります。

○泉井智弘委員 そういう意味でいうと、1泊2日ではありますけれども、例えば、災害避難生活1か月を1泊2日に凝縮するみたいな。例えば、キッチンカーが当日来るのかっていう話っていうわけではなくて、キッチンカーが到着したときにどういうことができるのかっていうのも含めてやる感じになるのかなと思うんですけども。

それは開催してからの話なんですけど、これ、誰がまず、この避難所を仕切る、災害対策本部って本来立ち上がると思うんで、災害対策本部が立ち上がって避難所、実際はここ一つではないと思うんですけど。

まず、この吹二地区の避難所が開設されたときの仕切りっていうのは、どこにあるんですか。防災リーダー200人程度って書いてましたけど。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 避難所の運営に関しましては、基本的には開庁をしている、学校がやっている時間であれば、もう当然その施設の管理者様がいらっしゃるとか、当然、小学校であれば、市の緊急防災要員、その他、指定の避難所には市の職員も駆けつけるということになっております。

運営の主体につきましては、当然、地域のほうで運営をしていただきたいという思いはあるんですけども、なかなかそれは地域ごとによっても

実際に運営できるかというところという状況でもなかったりしますので、様々な主体が連携をしながら運営をしていく必要があるというところになってるんですけれども、今回の訓練では、実はそういったところの役割の分担、ここを明確にしていきたいなというところもありましたんで、凝縮した1泊2日にはなるんですけれども、こういった方々に、どの役割を担っていただくのかというところを少しリアルに体験をしていきたいと、考えていきたいということを考えております。

○泉井智弘委員 それは、避難所が開設してから、それなりの人たちに集まってもらって役割分担をするのか、それとも避難所が開設する前に、ある程度災害を想定して役割を決めておくのかっていうのは、どちらなんですかね。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 目指すところは、後者になります。

事前に役割を分担した上で、割り振った役割に基づいて発災した場合に活動をいただくということを考えております。

ただ、いろいろな状況が考えられますので、そこを補完するような、実効性のあるものにしていかないといけないので、この1泊2日ではありますけれども、そういったところも確認をしていきたいということを考えております。

○泉井智弘委員 それでよかったなと思うんですけどね。実際、防災訓練とかも、地域防災会議とかもそうなんですけど、やっぱり想定して、誰がどの役割をするかっていうのは、その各地域の防災委員会とかがあるところはある程度決めてるっていうのがあるんで、やっぱり起こってから動く、訓練なんですけど想定をしているっていうことなので、やっぱり起こったときに、どういう役割をするかっていうのは、もう事前にある程度決めておくっていうのは非常に大事なかなと思うんで。

実際、この訓練が始まる前に、何回かそういう委員会というか、会議体を持つってことですかね。

○有吉恭子防災政策推進監 今、委員おっしゃるように、事前に決めておくことが非常に重要やと思っています。

それは、実際の被災地でうまくいった避難所運営の場所とそうじゃなかった場所を比べたときに、事前に話し合って役割を決めていたところ、そこがこのマイナーチェンジして集まった人で役割分担したところと、発災した後で、えいやで決めたところでは全然違ったっていう実態がありました。

なので、前者の事前に話し合っていたほうがいいというところの手法を採用するために、今回も一月に1回ずつぐらいは集まって、地域と役割分担等について話し合っていきたいと思っております。

○**泉井智弘委員** 要は、1泊2日と言いながら、実際は数か月かけて準備も含めてやっていくっていうことで、それは意味があるかなと思います。

さっきの浜川委員の話、僕、大事やってある程度思ってたんですけど、断水も想定してという話はあると思うんですけど、実際、聞こうと思ったのは、水であったりとか電気の部分をどうしていくのかなって。

通常に使えるまま訓練するのと、実際全く使えない状況で災害、防災の備蓄品、発電機等を使って運営していくとでは大きな違いが出てくるかなって思いますし、実際の発災時を想定した健康状態のチェックをするのであれば、1泊2日といえど、そういうインフラっていうのは一旦止めてやるのも僕はいいんじゃないかなっていうのは思ってたんですけども。断水あるいは停電、その辺はどうですかね。

○**柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任** 水については、完全断水を予定しております。備蓄水であったりとか、ほか、水についても届けていただく中で、それに対応するという事を考えております。

電気につきましては、今のところ停電ということも想定はしていただんですけども、不安定な状況にしようかというような、地域の中でもちょっとお話が出たりとかして。要は、電気が使えたり使えなかったりということで、必要な発電する設備なんかは用意してそれも使っていくということは話をしているところでございます。

○**泉井智弘委員** できるだけリアルに、どうせやるならやっていただきたいなど。いいデータがそっちの

ほうが取れると思いますし、経験にもなると思うんです。

あと、対象年齢を教えてくださいよろしいですか、参加される方の。

○**塩津達哉危機管理室主幹** 参加につきましては、吹二地区の小学校区内の住民の方を対象としているところですので、応募の仕方につきましては、連合自治会と自主防災組織の方々を通じて参加を募集しようというふうに考えております。

○**泉井智弘委員** 対象年齢。例えば、もう子連れでもいいのか。

○**柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任** 可能な限り、本当に幅広い年齢層の方に御参加をいただきたいということを考えております。

今回、健栄研さんも入っていただいて健康状態のチェックというところはあるんですけども、これに関しては、ある一定の年齢層というところが一応、条件としてあるんですけども、この訓練に御参加いただくに当たっては、当然、いろいろな年代のところで御参加をいただければということを考えております。

○**泉井智弘委員** 子供が小っちゃかったり、高齢者がいたり、あるいは障がい者がいたりとか、それも避難所の運営の中ではこれまで議会でも配慮の必要な方はどうするんだとかっていうのをいろいろ議論してきたかと思うので、どうせせつかくやるんだしたら、一人でも二人でもそういう対象者に来ていただいて、実際やってみてどうなのかっていうのは、一つかなと思うのと、あともう一つ、実際の災害時は自宅では住めるけれども、電気、水道が止まって炊き出しだけ欲しいとか、そういうのも想定されると思います。

例えば、次の日か、当日か、昼の炊き出しは、もう誰でも来てもらっていいですよとか。中にいる人だけじゃなくて、もうできるだけ多くの人、特に吹二地区を想定しているのであれば、もう吹二地区の方に来ていただいて、実際、備蓄してた食べ物が想定以上に少なかったなどかかっていうのも出てくると思うんですけど。思ってたより食べられへんかったりとか、こういうふうなのは当たり前にあると思う

んで、もうよりリアルに僕は逆にやっていただいたほうが。

ちょっと体調悪かったら、それはもう帰っていただいたらいいと思うんですよ。別に、ずっとおれっというわけでもなくて、やっぱりこれ、無理やなと思ったら、それはもう自宅にどうぞ帰ってくださいでいいと思うんで、よりリアルな体験っていうのを、またデータっていうのが取れるようにやっていただきたいなというふうに思いますんで、よろしく願いしておきます。

○山根建人委員 るる委員さんが質問しはったんで、僕の大体聞きたいことは分かったんですけど。

1点、予算額で250万円のうち半分ぐらい委託料ということなんですけど、これは市の職員さんは何人ぐらい関わる想定なんですか。

○塩津達哉危機管理室主幹 危機管理室の職員4名程度と、あと校区防災要員がいますので、そちらの職員につきましてもお声がけをさせていただいて、参加を考えております。

加えて、危機管理室の兼務職員のほうについても照会をさせていただいて、避難所の体験訓練ということを考えております。

○山根建人委員 地域の防災担当要員の職員さんに声をかけるということは、これは、もうほんならボランティアということですか。

参加は、その人が行けるかどうかみたいな感じに委ねるってことですか。

○塩津達哉危機管理室主幹 通常の地域の訓練につきましても、同様にありましたら、校区防災要員のほうにつきましても参加をしているところがございます。

ですので、業務として参加いただくという形になります。

○山根建人委員 吹二地域でやるということなんですけど、その地域防災要員の職員の方は何名おられるんですか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 吹二小学校区として3名を任命しております。

○山根建人委員 だから、あと危機管理室と兼務されてる職員ということなんですけど、ほんなら、もう

総勢は10名そこそこってということで理解させてもらっていいですか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 実務として、10名程度で運営していくという形を今現時点で想定してございます。

○山根建人委員 市の職員4、危機管理、もうここでおっても、もう4名超えてると思うんですけど。部長は参加しないの。

○菊地祥吾危機管理室主幹 実務として4名ほど運営に関わる者として参加させていただきまして、また、こういったやはり初めての訓練、貴重な訓練というところもありますので、随時、危機管理室のこの幹部とかも含めて現地で参加したいというふうには考えてございます。

○山根建人委員 市長、副市長は参加しないの。

○有吉恭子防災政策推進監 お声かけはさせていただこうなっているふうには思っておりますが、住民の方にとって、ストレスのあまりかからない状況で実施したいなって思っております。

○山根建人委員 何が言いたいかというと、これ、初めての訓練なんで、やっぱりこれ体験するとせえへんのんとでは、地域とか市の職員とか、我々やっぱり議員もそうなのかなと思うんですけど、全然、ほんまに発災した時の経験がちょっと違うというふうにも、前もって事前に役割決めてたところと全然違うというのでは、この訓練を実際に体験しているかしていないかっていうのでは、市民の方にとっても、役所とか行政機関にとっても全然違うというふうに思うんですよ。

だから、委託料で半分ぐらい占めてるわけで、それはもう撮影してもらったりとか、いろんな準備をしてもらおうと思うんですけど。あと、健康の調査取ってもらったりとかはすると思うんですけども、それに全部任せっきりにならず、やっぱり市としても、あと仮にやっぱり議会としても、泊まりに行くまではちょっと、さっきも市長とか議長とか議員が泊まりに行ったら、もしかしたら変なストレスかけるかもしれないんで、見学とかね。

そういう、より多くの市の職員の方とか議会とかに体験をしてもらおうというか、見てもらうっていう

のは非常に重要なんじゃないかなというふうに思うんですけども、その点はいかがお考えでしょうか。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 私
や有吉監、ここにいる菊地主幹、塩津主幹もそうですけれども、実際に能登、輪島での対応をしてきて、避難所にも宿泊をした経験があります。

やっぱり、そういう実体験をしたことを、いかに未災地の中でもリアルに再現をして、皆さんと状況を共有することが重要かというところを非常に大事に思っております。

ですから、こういう機会をつくらせていただくということは、委員おっしゃっていただいているように、いろんな方に見ていただきたいですし、経験もしていただきたいというところを思っております。

ただ、キャパが限られておりますので、全てが宿泊できるということはございませんけれども、できる限り広く市民の皆様にも知っていただきたい、経験していただきたいという思いを持ってこの訓練に取り組ませていただきたいというふうに考えてございます。

○山根建人委員 その点は、だから、委託だけにほとんど任せずに、やっぱり市としても関わっていただきたいなというふうに思います。危機管理監だけじゃなくて、地域のそういう要員の方も声をかけると思うんですけど。

あと、だから実際に体験しているとしてないのでは全然違うってということで。今回、吹二地域でやるのは、それはそれで役所からも近いし、何かあったらってということで。ほんで、新しい防災倉庫の横の小学校なんで、それは今回やるのは理解するし、そういうことで第1回目はやったらいいなというふうに思うんですけども。

例えば、被災するとこ、避難所になるとこって防災倉庫が横にある体育館だけじゃないですよ。だから、ちょっと離れた、今回、例えばこの地域でいうと、南吹田小学校とか、豊一小学校とかがそういう訓練の場で、そっから運ぶというようなことは考えなかったんでしょうか。そういう訓練というか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今回の訓練におきましては、やはり初めての訓練というところもございます

ので、実施しやすいといえますか、そういった条件の整った場所、また吹二地区においても、以前から実施に向けてこういった検討が進んでいたところを踏まえて、実施場所として選定したところでございます。

委員おっしゃいますように、もちろん災害が起きましたら、どこでもそういった対応が起こり得る、また、そういった物資を運んでみるとかいう、そういった経験も必要かと思しますので、今回の訓練を実施したことによって、そういった訓練のフレームをしっかりとつくって、いろんな地域でこういった訓練が実施できるように、また、そういった避難所運営が円滑になるようにということで、危機管理室として必要な支援は引き続き実施してまいりたいと考えております。

○山根建人委員 実際に宿泊するっていうのは、僕もあんまりなかなか聞いたことがない訓練ですので、ここ、吹二地域、結構熱心にやってらっしゃるので、それはそれでいいなというふうに思うんですけども。

ぜひ今後、ほかの地域というか、防災、そういう組織がちゃんと、一応、全部立ち上がってるのかもしれないですけども、活動できてない地域なんかでも実際にやってみると、ちょっと意識も変わっていくのかなというふうに思いますので、いろんな地域で実施していただくといいようにちょっと検討いただきたいなというふうに思います。

あと1点だけ。幅広い年齢で募集するということは、赤ちゃんとか子連れの方が来たときに、おむつの交換とかも、そういう備蓄倉庫にあるやつを出してきて、それを使ってもらうってことになるんでしょうか。そういう方が来た場合は。

○菊地祥吾危機管理室主幹 そういった対象の方が来られた際には、そういった備蓄品の活用で、おむつも備蓄しておりますので、活用いただくことも実施したいというふうに考えてございます。

○梶川文代委員 まず、議案参考資料。一番最初、この議案参考資料で議案のレク受けたときは、この議案の参考資料しかないんですけど。もうこれでは、どこでやるのかすらも分かんないような状態で、議案のレクのときに幾つかお聞きはしたんですけど

も。

これ、江口委員が請求してくれはった資料、この避難所宿泊体験訓練実施概要、はっきり言って、議案の参考資料でせめてこれぐらいの資料はつけておいてもらいたかったなと思うんで、今後、こういうことをやらはるときは、せめてこういう、これぐらいの資料は作ってもらえるようにお願いしたいんですけどいいですか、お願いして。お答えください。

○菊地祥吾危機管理室主幹 分かりやすい説明資料にさせていただくよう、御意見として参考にさせていただきます。

○梶川文代委員 あと、参加者について、大体200人ぐらいを考えているということですが、予算組んでらっしゃる需用費の中で段ボールベッド30床しかお考えになってないみたいなんですけど、段ボールベッドを使うのは誰になるのか、あと、ほかの方はどういうふうに宿泊されるのか聞かせて。

○塩津達哉危機管理室主幹 予算上は30床の購入としておりますけれども、各小学校に段ボールベッドを配置しておりますので、そちらを吹二小学校に集めてくるということで考えております。

それでは対応できるように、宿泊者の人数につきましては考えております。

○梶川文代委員 この30床分というのは、買い足しということで、200人分、あと170床分はあるやつを使うということになるのかな。

○塩津達哉危機管理室主幹 200人という参加者につきましては参加者数でして、その中で宿泊される方につきましては、60から70人ぐらいを見込んでおります。

その60床から70床につきましては、30床の買い足しと、各小学校から集めてくるもので宿泊するという形で考えております。

○梶川文代委員 また、議案のレクのときに、何で吹二なんかっというのを聞いたら、市役所から近いからっということで吹二にしたと。自分たちの都合とか、それで吹二地区にしたっということやったんですけど、今現段階でその後、吹二地区の方にどれだけ周知とか、お話とかされてるんですか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 吹二地区とは、関係者の調整会議で吹二地区の代表者と今現状やり取りしているところでございます。

実施に向けての参加者の募集等は、今後、実施していく形になってまいりますので、また今後、関係者会議で吹二地区と連携を図りながら地域への周知方法なども含めて調整してまいりたいと考えております。

○梶川文代委員 国費もこれ半分出るっていうことで、やることについては、やってみることにしては、それは意義あると思うんですけども。

やっぱり、勝手にこっちで絵を描いて、それに従ってやりたいな、そういうものにはならんようにきちっと話し合いしながら進めてもらいたいなと思ってます。

それと、あとキッチンとかトイレカーのお話も出ましたが、正直、さっき浜川委員もおっしゃったように、ほんまに災害時、来れるのかっということか、あと、これ台数が限られてくるので、本当の、実際の災害の現場を想定するのであれば、このキッチンカーとかトイレカーっていうのは、住民さんにあまり負担とか、ストレスかからんように配慮の部分で呼びはんのかもしれないけど、実際のことを考えたときには、ないほうが、実際のところはね。

だって、ほんまに実際にその災害が起こったときに、そんなん、地元じゃないもん。基本、やっぱり災害時って、既存の資源を使ってやるっていうのがメインとか当たり前なので。これの発想的なものは、私、ちょっとイベント的になっちゃってるんじゃないかなみたいなふうに思うんです。

だから、その辺りについては、関係者とかとお話し合いはしていただきたいけど、キッチンカーも呼んできます、トイレカーも呼んできます、みたいなことを前提に話すじゃなくて。本当の実証体験でいけば、要らないものやっていうふうに私は思うんで、その辺りはきちっとお話し合いをしていただきたいと思うんですけど、お願いできますか。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 委員おっしゃっていただいているように、時間がたてば

キッチンカーも来てくれますし、トイレカーも届く。

ただ、発災直後は、もう限られた施設の中でやり切っていくかといけないということは当然そのとおりだというふうに我々も認識していますので、今回につきましても、トイレカーだけではなくて、既存のトイレ、これについて携帯トイレを使ったり、あとは組立て型のトイレを活用するなど、ということも今回の訓練ではメニューとしては組み入れているところがございます。

○**梶川文代委員** 例えば、今回の訓練の中の緊急避難的なところのブースとして、じゃあ置くという形にして、このキッチンカーとかトイレカーを使わんと、まずできるようにして、どないしてもやっぱり足りひん部分だけこっちでいきましようみたいな、そういうところの位置づけにしといたほうがいいなと思いますので、その辺り御理解ください。

あと、さっきおしめ、おむつ、ミルクとかのお話もありましたけど、生理用のナプキンなんかのこともお考えいただいておきたいなというのと、あと、やっぱり高齢者の方の場合、正直、日常からリハビリパンツを履いてらっしゃる方もおられるので、ちょっとそういったものなんかの備蓄が今後必要かどうかというところを確認する。

ただ、僕、リハパン履いてます、私、リハパン履いてますって言わはる高齢者さん、ちょっと恥ずかしくておられないかなとは思うんですけど、こういったもの、実際、どこまで考えてらっしゃいますか。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 市として備蓄物資を様々な確保しておりますが、その中に生理用ナプキン、大人用のおむつというものも確保してございます。

先ほど、乳児のおむつについてお話しさせていただきましたが、もちろんこういった生理用ナプキンであつたりとか、大人用のおむつというものもこの訓練で活用してまいりたいというふうに考えてございますし、なかなか自分から言い出しにくいところにつきましては、避難所での物資の配布方法等についても配慮が必要かなと思いますので、そういったところを見ることもこの訓練の中で取り組んでいきたいと考えます。

○**梶川文代委員** その辺り、スフィア基準の中でもあ

ることなんで、そういったことも皆さんに知っていただく必要もある。だから、必要な場合は言わなきゃ駄目なんだよっていうところも分かってもらう。

だから、スフィア基準についても、皆さんに周知する機会にもなるかと思うんで、お考えいただきたいと思いますが、いかがですか。

○**柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任** このスフィアの基準に関しましても、江口委員からも資料の要求もいただいたところですが、まだまだこの内容について周知が図られていないというところも事実でございます。

今回、いろいろな関係者が関わって、もちろん地域の方もたくさん御参加いただくということが前提になりますので、きっちりこのスフィア基準につきましても事前に御説明をさせていただいて、認識を共有させていただく場を設けていきたいというところは考えてございます。

○**梶川文代委員** それと、あと備蓄物資の中で、スマホとかPCとか充電できる発電機とかってありませんでしたか。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 備蓄物資の中で、各避難所にガスボンベタイプで発電できる発電機を用意してございます。

○**梶川文代委員** ただ実際、これ災害現場では、これお聞きはしたんですけど、みんな充電したいんですよ。ただ、そういう場合のやっぱり優先順位の決定とかも、ある一定必要じゃないのかなと思うんです。

そういうロールプレイングの中でもいいですし、そういうこともきちっと視野に入れた形で、この発電機とかも持ってきてはるんですね、当日、当然。だから、そういう御説明とかもしっかり加えていく必要があると思うんですけど、お願いできますか。

○**塩津達哉危機管理室主幹** 委員おっしゃっていただいた発電機の使い方につきましては、まず優先順位といたしましては、避難所の受付とかで使わせていただきまして、その後に避難者の方々に使っていただくということは想定はしております。

その使い方につきましては、今後、関係者間との調整の中で検討を進めていって、避難所訓練の中で決めていきたいというふうに思っております。

○**梶川文代委員** あと、ちょっと健康チェックの関係もあれなんですけど、ただ、これが何で必要なかって、いわゆる災害関連死、こういう形で実際あるんだよってところで。

要は、皆さんの命を守るために大事やということでない、何か自分の体を調べられるっていうことに対して、やっぱりちょっと拒絶感とかもある方も中にはおられると思うんです。

だから、やっぱりそういう場合、やっぱりそういう災害関連死につながるっていうことと、血圧とかそんななんなかでも、やっぱり自分のふだんを知ってないと、今、異常になってるっていうのとかも本人分からないんですよ。だから、やっぱりそういったふだんからの御自身の健康チェック、自分のデータをある一定、記憶の中に入れといてもらうことも大事やというようなこともしっかりとお伝えせえへんかったら、やる意味ちょっと半減してくるなと思うんで、その辺りもしっかりと指導、講習とかっていうのもするべきやと思うんですけど、そういう御準備とかしてらっしゃるんですか。

○**柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任** 今、御質問いただいた内容というのは、非常に今回、検査をさせていただくに当たっては重要なポイントになってくるところは、健栄研さんから伺ってございます。

当然、人の体のことに関わるような、こういう検査になりますんで、研究所のほうでも必ず倫理審査を通していくということになってございます。倫理審査を通した上で、その方々のデータを取らせていただくに当たっては、必ず、対面なのか、ウェブなのか、ユーチューブなのか、あらゆる手を尽くしながら御本人さんに御説明をさせていただいて、この必要性をお伝えをした上で御同意をいただき、この検査に御参加、御協力をいただくということをしていきますので、この検査の意義というところはきっちり行政としても併せてお伝えをしてまいりたいというふうに考えてございます。

○**梶川文代委員** もちろん同意書取るんですよね。

あと、DMAT、だから千里救急さんが来てくれるの分かるんですけど、この近くでいうたら、本

当、済生会の千里さんと阪大ぐらいですよ、今DMAT登録してんのね。

ただ、私としては、やっぱり市民病院も来てよって。っていうか、一応、健栄研さんなんかも来はるってことであれば、健栄研さんと市民病院は近所でもあるしね。

言うたら、これが健都にあるという値打ち、吹田にこういう宝があるんだよみたいな知らずきかけにもなんのに、何で市民病院けえへんのって、何ですか。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 今回の訓練におきましては、そういったDMATでの登録といったところから千里救命の先生、また災害支援ナースにお越しいただく形としております。

市民病院につきましても、全く市として連携していないわけではなく、この訓練の翌週に実施予定としております地域防災総合訓練におきましては、そういった市民病院から医師、看護師を派遣いただきまして、消防などと連携した訓練を実施しております、市民病院としての活動、一緒に取り組んでいるところでございます。

○**梶川文代委員** 今、消防の名前も出たけど、市民病院とか消防とかにとってもええ勉強になることでもあるのですね。

やっぱりすごい大事なことやと思うんです。やっぱり健栄研と今後、連携して市としても考えていくという部分においては、市民病院は立地的にも立場的にも、しかも健都の中で一緒にやってるっていうね。やっぱりこの連携をするべきやと思うんで、やっぱりそれはちょっと今からでも市民病院とお話ししていただきたいんですけど、どうですか。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 今回の件につきましては、繰り返しとなりますが、関係者として、関係機関と連携をもうスタートして調整を実施しているところでございます。

その中でDMAT、あと災害支援ナースとして御登録いただいております医師、看護師に御参加いただくという方向で調整をスタートしているところでございます。

市民病院との連携につきましては、先ほど申し上げ

げたとおり、もう既に訓練で連携して図っているところもございますので、引き続き、また健都という立地の関係で、健栄研さんとも、吹田市も危機管理室も連携してまいりますので、様々な手法で連携を図ってまいりたいというふうには考えます。

○**梶川文代委員** 私も防災士なんですけど、防災士の講座の中でやっぱりDMATの関係の講演とか御講義も受けたことあるんですけども、やっぱりDMATもさっき言った既存資源、現場にある医療機関であったりとか、例えば担架一つ取ってしても、医療用具一つ取ってしても、やっぱり既存資源がどんなっていうのもすごい大事ならしいんです。

だからやっぱり、例えば、これ医師会とかには今回、声かけてんのかな。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 今回の訓練におきましては、医師会との連携は行っておりません。

○**梶川文代委員** ただ、いざ災害が起こったときに、やっぱりDMAT、DMATの中でも分担していかはるけど、やっぱり近隣の医療機関の方々の助けが絶対に必要やいうことははっきり言うてはりましたんで、前も。

だから、本当の実際の災害時のことを考えると、やっぱり近隣の医療機関さん、これだけ協力していただける医療機関があるっていう、いわゆるそういうネットワークというか、素地づくり的なものもすごい重要やと思うんで、その辺りも。

吹二地区全体に声かける中において、やっぱり地域の医療機関様へみたいな形の案内なんかも考えて周知して協力依頼するべきやと思うんですけど、どうですかね。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 今回の訓練におきましては、避難所での1泊の宿泊体験というところの訓練の実施内容を定めて実施させていただきたいというところで考えておりますので、その訓練の当日に御参加していただく、そういった避難者、参加者の健康状態などを確認いただく医師、看護師の参加をいただきたいというところで考えてございますので、一定、限定的な範囲での実施というところにはなっております。

地域への周知というところでございましたら、関

係者調整会議で吹二地区とも連携を図っていきますので、地域への周知という形で吹二地区のほうには様々な相手方に周知をいただくようには話してまいりたいと思っております。

○**梶川文代委員** さっきもちょっと冒頭言ってますけど、自分たちがこういうのを押しつけるような形はやめていただきたいっていうのと、例えばですけど、飛行機の中で急病者が出たときに、ドクターいますか、ナースいますかって言いますやんか。手挙げて名のってもらいますやんか。そういうのって災害現場でも当然、必要なんですよ。

だから、来られた方で、僕、医師です、手伝うことあったらとかいうのとかを名のり出ていただくっていうのもすごい重要になってくるので、実際の訓練みたいな想定していくとね。だから言ってるんであって、こういったこともしますっていうことを医療関係者さんに、いろいろお伝えしておくことも私はいいんじゃないかなと思って申し上げてるんで、そこんところは、もうこうするって決めてるんや言うんじゃないかって、お考えをいただきたいんですが、お願いできますか。

○**柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任** 議案のときの事前の御説明の中でも、委員から支援が必要の方の御参加のことについても御質問いただいたりもしながら、関係者の会議の中で共有をさせていただきますというお話もさせていただいたところですよ。

今回のこの医療関係者、医療機関のことについても、同様に様々な関係者が関わる会議の中でも、情報共有はこちらからさせていただくようにしてまいります。

○**梶川文代委員** あと、今後については、さっきちょっとほかの委員からも質問ありましたが、どういう考えがあるのか聞かせてください。

○**塩津達哉危機管理室主幹** 今回の訓練につきましては、各地域で避難所運営に関する実践的な訓練をしていくためのモデルケースとして、各地域へ水平展開できるように訓練フレームを確立させることっていうのを目的としております。

ですので、来年度以降につきましては、そのモデ

ルケースを踏まえまして、各地域で訓練を実施していただけることを目指しておりますけれども、もちろん、その地域で訓練するに当たって全てを地域にお任せするというわけではなくて、市としても必要な支援を行いながら、各地域での実施につなげていきたいというふうに思っております。

○**梶川文代委員** そういうお考えがあるのでしたら、今回は市役所から近いというところで吹二地区ですけれども、各地区、今もう2地区ぐらいかな、自主防災組織がないの。

だから、その代表者さんとか、そういう方とかだけでも、御見学いかがが的なことで、申し上げておく必要もあるんじゃないかと思いますが、何かされる予定ありますか。

○**菊地祥吾危機管理室主幹** 今回の訓練におきましては、吹二地区の方々に加えまして、吹田市で育成しております地域防災リーダーについても御参加を呼びかけさせていただく予定でございます。

こちらにつきましては、委員おっしゃるような地域の代表者の方々、自主防災の活動に積極的に取り組んでいる方々がほとんど登録されておられまして、吹田市の中でも各地域に複数名、ほとんどの地域で複数名がこちらの登録をされているというところでございますので、こういった方々に、この訓練に御参加いただくことで、ほかの地域への広がりっていうのも期待できるかなというふうに考えてございます。

○**乾 詮副委員長** 資料作成ありがとうございます。まず、資料からお尋ねしたいと思っています。

今回、5月のこの補正予算ということで、なぜ当初予算で2月定例会にこの事業についての予算提案ができなかったのか。この交付金の資料を拝見すると、国の交付金の事情によってということなのかとは思いますが、やはり地方自治法からも予算の計画は年度の当初に全体の計画を組むということが、これが基本になってる中で、5月に追加提案をするというのは、3月に議会を終えて期間のない中で提案されてるっていうところについての事情についてお聞きします。

○**塩津達哉危機管理室主幹** 議案参考資料の10ページ

に沿いまして御説明をさせていただきたいと思います。

まず、交付金の創設の目的につきましては、記載のとおりとなっておりますけれども、今回、対象とする事業といたしましては、こちらの避難所宿泊体験訓練というのは、被災者支援体制整備加速化事業に該当するものとなっております。

また、創設から吹田市への通知までの経緯につきましてですけれども、まず令和7年12月26日に国の令和8年度の予算政府案が閣議決定されまして、防災力強化総合交付金というのが新規事業として計上されたというところがございます。

その後、令和8年2月24日に内閣府から大阪府を通じて交付金が令和8年度創設予定であるということと、制度の概要について吹田市への通知があったというところなんです。

その後、3月13日に交付金の説明会が実施されました。4月7日に国の予算が成立して、本交付金が正式に予算化されたところです。

5月25日に本交付金の意向調査があり、6月5日に意向調査の回答を行ったというところがこれまでの経緯となっております。本交付金につきましては新規に創設されたということと、制度概要の通知が2月24日であったということ、また、説明会が3月13日であったというところから、当初予算での計上というのは困難であったため、5月補正に計上を行ったというものです。

○**乾 詮副委員長** じゃあ、この宿泊体験訓練については、十分に吟味された上で計画されたということでしょうか。

○**塩津達哉危機管理室主幹** この訓練につきましては、前から検討を進めさせていただいて、十分に議論した後に補正予算として計上を行っております。

○**乾 詮副委員長** そこでお伺いしたいんですけど、ちょっと江口委員の参考資料とか、他の委員からの御質問への答弁を踏まえて、曖昧な点があるんで確認したいんですけど、江口委員の資料では200名の参加予定者となっております。先ほど、梶川委員の質問への答弁では、宿泊予定は60人から70人ということで、それに必要な追加ベッド台数を購入するために

予算として上げておられると。

実際、宿泊予定を60人から70人とされたということとでよろしいのでしょうか。そして、その人数を対象に募集されるということとでよろしいのでしょうか。

○塩津達哉危機管理室主幹 副委員長のおっしゃるとおりでございます。

○乾 註副委員長 吹二小学校の屋内運動場が宿泊予定箇所と判断していいのでしょうか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 屋内運動場で宿泊という形で想定してございます。

○乾 註副委員長 60人から70人、吹二小学校の屋内運動場で宿泊できるのでしょうか。ちょっとスペース的には不足すると思うんですけど。

○菊地祥吾危機管理室主幹 今現在、屋内運動場におきましては、パーティション等で区画を確保して宿泊するという形が想定されますが、スペースの中で勘案したところ、十分にそのスペースは確保できる、おおむね100区画ぐらいはそのスペースが取れるというふうに確認してございますので、今回の訓練においても対応できると考えてございます。

○乾 註副委員長 100まで屋内運動場で1人当たりの災害時の宿泊の必要スペースを確保できると。

ということは、吹二小学校では、100人キャパの中で、今回の訓練はマックス70人をめどに募集されるということとで再確認したいんですけど、よろしいでしょうか。

○菊地祥吾危機管理室主幹 募集につきましては、200人の参加を募集するんですけども、おおむね宿泊する方が60人、70人ぐらいだということとで想定しているものでございます。

その人数につきましては、また今後、関係者の調整会議等も含めて調整をしてみたいというところで考えてございます。

○乾 註副委員長 ちょっと御答弁に曖昧さを感じるんですけど、200人募集しますよと。そのうち希望するだろう宿泊者が70人ぐらいまでと。だから、キャパは吹二小学校の屋内運動場で足りるんですよということですけど、200人の募集をかけて、先ほど吹二小学校は100人ぐらいまで泊られますよということですけど、120人、130人という方が泊まりたい

と手を挙げてこられたら、その際に対応どうされるのでしょうか。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 今回の宿泊訓練につきましては、宿泊される方、60名、70名ということで、それが200名程度なんですけれども、関係者の調整会議の中で、もちろん吹二地区さん、学校さんとも話をしあって、普通教室が使えるかどうかというところも今、話をしているところです。

ですから、あの施設の屋内運動場、体育館だけを、これを取り出してこの訓練を設計しているというわけではございません。

ただ、屋内運動場、体育館の中で、実際に泊まれるのであればどれぐらいか、45張りのパーティションが備蓄されてますんで、それを使う、普通教室も幾つか使わせていただくというところで、今、関係者の中でお話をしているところで60名、70名ぐらいかなというような見積りをしているという状況です。

○乾 註副委員長 普通教室という言葉が出たんですけど、なかなか小学校、普通教室を開放してくれないというのがこれまでの現状だと思います。

特に、留守家庭児童育成室が不足する際に普通教室、これについては使えないっていうのがこれまでの学校教育部の判断で、児童の物品が置いてある普通教室は基本的に開放しないというスタンスを吹田市の学校教育部は取られてきたと思うんですけど、その調整大丈夫ですか。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 今回の訓練の重要なポイントは、副委員長が今、御質問いただいたようなところにもあります。

実際、避難所運営マニュアルで使える教室がどこですかというようなお問合せもさせていただいて、普通教室、多目的も含めていろいろ使えますよという学校があったり、そうではない学校があったりというような状況が現実でございます。

これは、今までもこういう宿泊訓練をしたりとか、リアルに採用するようなことがなかったのどうしてか机上だけのお話になっていたところがござい

す。

ただ、被災地ではそういったことを言っておきな

がらも、いざ蓋を開けてみると普通教室であったり、いろいろな理科室であったり音楽室であったりというところも避難で使われるということがございます。

これを、今回の事前の調整で地域と学校、それと教育委員会とお話をさせていただきながら、本当にどの部分をどれぐらいの規模感で使えるのかというところも今、この関係者会議の中で実際に調整を進めている。これを最終的には一つのモデルケースとしてお示しをしていきたいというところを考えているところでございます。

○乾 註副委員長 学校教育部長を経験された方がここにいらっしゃると思うんですけど、その点について、今回訓練ですから、やっぱり必要に応じて人数も確定して予算を取っていくというこの予算の観点から、普通教室も使って、幾らのベッドの台数で、どれだけの宿泊者をこの予算で想定して確定するのか、そこが必要だと思うんですけど、そのためにも普通教室の開放というのが前提になってくるということで、危機管理監、総務部長、いかがでしょうか。

○山下栄治危機管理監 ちょっと学校とのやり取りにつきましては、関係者、調整会議でやっているということですので、今、私がこの場でお答えはいたしかねるかなというところでございます。

いろんな想定をやって広げだすと、とことん広がるお話になってきて、そもそものこの宿泊訓練の目的が何だったのかっていうのが薄まってくるところもございますので、やっぱり一度こういう宿泊訓練をやってみて、避難所運営マニュアルを实际つくってモデルケースとしていくというところで、なるべく多くの方が参加できる、なるべく被災当時のところを再現していきたいというところで調整をしていきたいと考えております。

○井田一雄総務部長 この3月まで学校教育部長をさせていただいておりました。

私自身、この吹二小学校での宿泊体験訓練の件については、直接、当時学校教育部長としては情報は聞いておりませんでしたけれど、この間、教育委員会、学校も含めて本事業の実施に向けて協議がされているということでございます。

この間、学校の避難所についての認識っていうの

もかなり変わってきたというふうに私自身は学校教育部長時代にはそのように感じておりました。そういったことから、従来の屋内運動場だけということではなくて、実際の災害を想定して、普通教室もしくは特別教室、そういったこともこの訓練の中で協力が得られるのではないかなというふうには思っておりますが、ただ、その場にはいておりませんでしたんで、あくまでも想像の域の話でございしますが、そのように御理解いただければというふうに思っております。

○乾 註副委員長 ぜひ普通教室、訓練で使えるようにお願いしたいと思います。

また人数の確定のところに行くんですけど、最大100人ぐらいということに普通教室を使うとなるんですかね。

健康診査のこの対象は、宿泊者が対象っていうことで、事前、事後、きっちりと1泊した結果がどう出るかっていうことのための健康診査をされると、そういうことを予定されてると理解していいんですね。

○塩津達哉危機管理室主幹 副委員長のおっしゃっておりでございます。

○乾 註副委員長 まず、予算ですから、あくまでも計画であっても仕方がないと思うんですけど、こう人数が答弁でも変わってくるし、資料でも変わってくるというところで疑問に思うところがあります。

議案参考資料では、健康診査の委託料は5,800円の160人、ここでは160人という人数で議案参考資料に出ております。これは、あくまでも議案参考資料ですから。江口委員からの資料要求のあったのも、この委員会での予算の参考資料です。

この資料ごとに人数が違う。それから、答弁でも人数が変わる。実態と予算とで乖離するのはやむないこととは思いますが、この辺、160人まで予算を要求しているということは、やはりそれに近いことを想定した上で対象者を、それだけの知見を取らないとデータ面でも不足するんじゃないかと思うんですけど。

ちょっとこの審議の中では、どれだけの人に宿泊いただいて健康診査をした上でエビデンスを取って

いきたいのか、そのところが曖昧になってます。
ここは、やはり予算ですから、それだけの160人の
予算を取ろうというところなので、積算根拠をしっ
かりと持っていただきたいと思うんですけど、いか
がでしょうか。

○柴野将行消防本部企画総務室長危機管理室兼任 答
弁がちょっと不足していたところがありましたので、
私のほうで補足的にさせていただきたいと思います。

宿泊者の想定、健康確認の人数160人ということ
なんですけれども、こちらについては、在宅の方を
含むということで検討を今、関係者の中でも進めて
いるということになります。

実際に施設を使って宿泊される方もいらっしゃる
んですけれども、そうではなく施設で泊まらない、
ただ、自宅のライフラインが止まっていという想
定もしていただくんですけれども、不安があって避
難所にお越しになられる、先ほどほかの委員からも
ありましたように、食事だけを取りに来られる、ト
イレをこちらを利用するとかいう方もいらっしゃる
ことも想定をしております。

全ての方が宿泊されるということではなく、在宅の
中でも訓練をここで体験をしていただく中で、その
健康状態がどう変わっていくのかということも今
回の中で一つ組み入れている内容になってございま
す。説明が漏れて、不足しておりましたことをおわ
び申し上げます。

○乾 詮副委員長 今、説明いただいて、説明不足だ
ったということもおっしゃっていただいたんですけ
ど、やはり予算要求される根拠が予算の議案参考資
料で宿泊者以外も含むという辺りとかの説明もない
中では、いわゆるきっちりと予算要求根拠を資料で
示していただきたいということをお願いしておきま
す。

次に、吹二地区っていうのは難聴学級があって、
非常に聴覚障がい者の方々に対しての理解を深める、
そういう校区でもあります。

他の委員からの質問でもありましたけど、やはり
要支援・要介護者、こういう方が地域にお住まいの中
で、そういう人が参加を希望されたら受け入れてい
くのかっていうところで、受け入れるとしたら、委

託料の中で手話の通訳者が上がっていないとか、バ
リアフリーをどう考えていくかっていう予算が計上
されているようにも思えないとかあるんですけど、
その辺、要支援者の方を受け入れる、そういう体制
の訓練となっているのか、そういう人たちに対して
の訓練での対応について、今後はしっかり考えてい
かれるのか、その辺りもう一度御答弁いただけます
か。

○塩津達哉危機管理室主幹 副委員長のおっしゃると
おり、避難所では要介護者の方々っていうのはいら
っしゃると思います。当然、そういった方が来るこ
とが想定されますので、実効性の高い避難所の運営
マニュアルを作成していくためには、そういった要
介護者の方や支援する方々から意見を聞くというの
が重要であるというふうには考えております。

一方で、訓練の参加に当たりましては、安全面と
か配慮が必要な事項っていうのを確認する必要があ
りますので、そういったところは地域とか関係者を
含めて関係者会議で検討して進めていきたいという
ふうには思っております。

○乾 詮副委員長 ぜひ、要介護者、支援を必要な方
がこの訓練に参加したいとされたときの対応も、こ
の予算の中で十分に図っていただきたいということ
を要望しておきます。

一度置きます。

○梶川文代委員 今、乾副委員長の質疑の中で、在宅
の方もこの160人の対象に入ってるっていうことな
んですけど、いや、これ予算計上されているのは、
医師お一人、看護師お二人分だけなんです。

だから、会場と在宅におられる方もいたら、そん
なん体、二つに分かれへんねんから人数足りますか、
これで。お医者様と看護師さんは。

○菊地祥吾危機管理室主幹 こちらの予算で計上して
おります医師、看護師は、あくまで避難所の中で何
か体調の急変であったりとか、対応いただくために
しておりますので、在宅避難者の巡回等についてま
では、具体なところは考えてございません。

○梶川文代委員 いや、もうしんどいから帰りはるっ
ていう人が在宅に。言うたら、もう元気やしずっと
おるわみたいな人は家に帰らはれへんなど思ったり

もするので。

だから、やっぱりしんどかったという人が帰るんやろうなっていう、そういうことも考えていくと、どうやねんって思うので。これは、ちょっと足りませんよね、人数。

○菊地祥吾危機管理室主幹 訓練の参加者の中で宿泊される方というのは、あらかじめ参加者の中で確認した上で基本的には訓練を実施したいというふうに考えてございますので、実際にどれだけの方が宿泊されるかっていうのは、あらかじめ確定した上で訓練に臨ませていただきたいと思います。

当然、委員おっしゃるように、当日、いざこの訓練を体験しまして、やはりちょっと宿泊が難しいなというふうに感じられる方もいらっしゃると思いますが、基本的に宿泊の体制を取らせていただく人数等については、あらかじめ確定した上で訓練のほうを実施したいというふうに考えてございます。

○梶川文代委員 いや、あらかじめ宿泊すると決まってる方でも調子悪なったら家に帰らはると思うんですよ。訓練ですから。

でも、やっぱりそういう方の後追いをするのも正直必要やなと思うし。いや、ちょっとしんどうても、調子悪うても、あんた泊まるになってるからちょっとおってくれな困んねんというわけにはなれへんですよね。何かちょっとその辺りも矛盾、言ってることの的なもんがあれなんかなって。

だから、やってみることに、それは、取りあえずやるだけには価値があるんかもしれんけど、ちょっとその辺り、無責任な部分が残るとちょっとそれは困るなと思うんで。やっぱり、その人員の確保っていうのは、とにかく大変、最も重要なことであるっていうことも含めて、やっぱり医師、看護師さん、本当お一人とお二人だけやったら大変やでって思ったりもするんで、ちょっとその辺りの確保、拡充、その辺りもしっかりと今からでも手を打てんのやったら手を打つべきやと思うんですけど、どうですかね。

○菊地祥吾危機管理室主幹 基本的には、申し上げてるこの医師、看護師につきましては、避難所内にとどまっていただくことを基本としますが、やはり今

後、関係者調整会議でその具体的内容については詰めていきたいというふうに考えております。

在宅で帰られた方々について、その連絡体制をどうするかとか、そういったところにつきましては、また関係者調整会議の中で話をしながら整理してまいりたいところです。

○梶川文代委員 とにかく、これでいくかどうかっていうのは、しっかりと、やっぱりもう一人おったほうがいい、もう二人おったほうがいいのかというお話があるのであれば、やっぱりその辺りについてはしっかりと尊重して対応するべきやと申し上げておきます。

○竹村博之委員長 ほかに質問はありませんか。

(発言なし)

なければ、以上で議案第63号中、総務部所管分に対する質疑は終了します。



○竹村博之委員長 暫時休憩します。

(午前11時53分 休憩)

(午前11時55分 再開)

○竹村博之委員長 分科会を再開します。

次に、議案第63号 令和8年度吹田市一般会計補正予算(第1号)中、行政経営部所管分を議題とし、質疑を行います。

質問があれば、受けることにします。

○乾 詮副委員長 資料ありがとうございます。資料で質問させていただきたいと思っております。

今回、財政調整基金を財源として、一般財源については補正予算を組むというようなそういう構造になって、資料を頂くと、この5月の1号補正が成立すると、残高が56億684万7,000円ということで、60億円を切った状態になっているという状況にあります。

また、昨年と比較すると、昨年は11月に人件費の増額補正で10億円台の補正が組まれてるっていうところもありますので、財政調整基金、今回の決算はまだ出てませんが、この資料からは14億円取り崩したというような状況にあるということです、先行き不安なところもあるんですけど。

今回、この補正予算、財政調整基金で財源補填し

校正前原稿のため、正式な分科会記録ではありません。

ないといけない、財源としないといけないその理由
っていうのはいかなものだったのでしょうか。

○**板谷康次企画財政室主幹** まず、予算編成の前提と
いいですか、本会議の答弁でもしているような表現
にはなるんですけども、現在、必要な取組を進め
なければならないという課題と、基金残高の確保で
あったり経費を抑えるというふうな課題の両面のバ
ランスを見ながら財政運営をしておるところでござ
いまして、その考えの下、今回のこの2億円という
一般財源も必要というふうな判断で補正予算の提案
をさせていただいております。

その上で、補正予算のこの2億円と一般財源の予
算化の方法につきましては、財政調整基金繰入金以
外の歳入予算を何らかの合理的な根拠をもって計上
できるような歳入予算がございませんので、このよ
うな歳入予算の計上をしているところでございます。

○**竹村博之委員長** ほかに質問はありませんか。

(発言なし)

なければ、以上で議案第63号中、行政経営部所管
分に対する質疑は終了します。

○**竹村博之委員長** 以上で、予算常任委員会財政総務
分科会を閉会します。

(午前11時59分 散会)

予算常任委員会財政総務分科会審査順位（案）

令和 8 年 5 月定例会
(2026 年)

1 総務部関係

議案第63号 令和 8 年度吹田市一般会計補正予算（第 1 号）中分担分

2 行政経営部関係

議案第63号 令和 8 年度吹田市一般会計補正予算（第 1 号）中分担分